論　文

夢見る者の夢解釈（II）

── 創世記 41 章 ──

柊　　曉　生

I　プロローグ

創世記 41 章は「二年の日々が経って」という書き出しで，前章の続きとして始まる[1]。牢にいたファラオの給仕長はヨセフの夢の解き明かしどおり，三日後のファラオの誕生日に元の職務に復帰していたが，自分のことをファラオに話して牢から出してくれるようにと嘆願していたヨセフは忘れ去られたまま二年の歳月が経過したのである。

そしてここにあらたに登場するのが，給仕長の主君ファラオである。時間的な推移の中で，登場人物もファラオの家臣から主君のファラオへと進展する。ヨセフ物語の中核をなす夢物語は，37 章のヨセフ自身の夢から始まるが，40 章ではヨセフがファラオの二人の家臣の夢を解き明かし，41 章ではエジプト王ファラオの夢を解き明かすということでその頂点に達する[2]。40 章から 41 章へかけての家臣の夢から王の夢への移行のなかで，その文学的構成も，「夢を見る→夢を解き明かす」から「夢を見る→夢を語る→夢を解き明かす」とより複雑に発展している[3]。

37 章はカナンの地でのヨセフの夢であり，夢の解き明かしはない。40

---

[1] G. von Rad, *Das Erste Buch Mose Genesis* (ATD2-4; Göttingen 1987) 307. G・フォン・ラート『創世記（下）』（ATD. NTD 聖書註解刊行会 1993）693 頁。

[2] C. Westermann, Genesis 37-50 (BKI/3; Neukirchen 1982) 87.

[3] 本稿はテクストの共時的分析ゆえに資料の問題についてはふれないが，一般的に 30 節まではエロヒストといわれている。G. von Rad, op. cit. 307. G・フォン・ラート，前掲書 693 頁参照。

章と 41 章はエジプトの地でのエジプト人の夢であり，ヨセフによる夢の解き明かしがある[4]。40 章と 41 章は両章ともに「夢と夢の解釈」ということで密接に関連し，37 章のヨセフの夢の物語とは夢の解き明かしの有無において相違する[5]。「お前は王となるのか」という 37 章のヨセフに対する兄弟の言葉は，41 章においてエジプトの王の夢を解き，王に次ぐ地位に着くことによってある意味で現実のものとなる。37 章の夢の解き明かしを言葉においてではなく出来事において実現する。37 章から 41 章へかけて夢の物語は順次に深化し発展する。

42 章では，ヨセフの夢の解き明かしどおり実行した結果，エジプトには穀物が豊富にあることになり，飢饉に困るヨセフの兄弟がカナンの地から穀物を買いにやってくるというヨセフの家族へと話は立ち戻る。ヨセフ物語の第二幕は第一幕のはじまりに戻ってはじまる。

II　ファラオの夢と夢の解き明かし：創世記 41 章 1-36 節

(1)　創世記 41 章の全体的構造

創世記 41 章はその内容から大きく三部に分けられる。第一部（1-36 節）はファラオの夢とヨセフによる夢の解釈，第二部（37-46 節）はファラオによるヨセフの任命，第三部（47-57 節）はファラオの夢の実現である[6]。

第一部　夢と夢の解釈（1-36 節）

(i)	「夢を見る」ファラオ	3 人称叙述文
(ii)	「夢を語る」ファラオ→ヨセフ	1 人称会話文
(iii)	「夢を解く」ヨセフ→ファラオ	1 人称会話文

---

[4]　J. M. Husser は創 40，41 章はかなり後期の作とする。“Songe”, *DBSup,* 1499 参照。

[5]　J. M. Husser は創 37 章のヨセフの夢の物語は士 7 章に相似すると言う。前掲書 1499 参照。

[6]　G. W. Coats は 41 章を五部に分割する：(1) 1a，(2) 1b-7，(3) 8-14，(4) 15-36，(5) 37-57。G. Wenham もまた五部に分割するが，区切り方は異なる：(1) 1-7，(2) 8-13，(3) 14-46，(4) 47-52，(5) 53-57。*Genesis16-50* (WBC2; Dallas, Texas 1994) 389.

第二部　ヨセフの任命（37-46 節）
　　ファラオ，ヨセフを任命する（37-46 節）
第三部　夢の実現（47-57 節）
　　(i)　A　豊作の七年（47-49 節）　過去での準備
　　(ii)　B　二人の子供の誕生（50-52 節）　過去と現在
　　(iii)　A’　飢饉の七年（53-57 節）　現在での対処

(2)　創世記 41 章 1-36 節の文学的構造

第一部の「ファラオの夢」の中核は，「夢を見る」→「夢を語る」→「夢を解く」の三段階の発展である[7]。但し，(1)と(2)の中間には Interlude が挿入されている[8]。それぞれの内部は二段落ずつに分割される。

① 「夢を見る」ファラオ（1-7 節）
　(i)　第 1 の夢：七頭の雌牛
　(ii)　第 2 の夢：七つの穂
② Interlude：給仕長とファラオ（8-16 節）
　(i)　給仕長，ヨセフを思い出す
　(ii)　ファラオ，ヨセフを召喚する
③ 「夢を語る」ファラオ→ヨセフ（17-24 節）
　(i)　第 1 の夢：七頭の雌牛
　(ii)　第 2 の夢：七つの穂
④ 「夢を解く」ヨセフ→ファラオ（25-36 節）
　(i)　ヨセフ，ファラオの夢を解く
　(ii)　ヨセフ，ファラオへ提言する

---

[7]　ファラオの夢のが繰り返しかたられることについては，M. Sternberg, *The Poetics of Biblical Narrative* (Bloomington 1987) 394-400 頁参照。

[8]　Interlude は G. W. Coats が 8-14 節に関して述べている用語である。但し，筆者は「夢を見る」(1-7 節) と「夢を語る」(17-24 節) の中間として 8-16 節をとらえてこれを Interlude とする。

Ⅲ　創世記 41 章 1-7 節の全体的構造[9]

1-7 節のファラオの夢の叙述（三人称）は，１節前半の 41 章全体の導入と，１節後半から 7 節にかけてのファラオの夢の記述によって成り立っている。1 節後半はファラオの夢全体の導入であり，2-4 節が第一の夢で，対立する二組の七頭の雌牛（動物）の記事，5-7 節が第二の夢で，対立する二組の七つの穂（植物）の記事である。ファラオの夢は 1 回ではなく，37 章のヨセフの夢と同様に 2 回である。

二つのそれぞれの夢の中で対立する二組には，それぞれに対立する形容詞が付加されている。第一の夢では，「美しく」+「太った」七頭の雌牛のグループが最初に登場し，次に「醜く」+「痩せた」七頭の雌牛のグループが出現する。最後に，第二のグループが第一のグループの雌牛を食い尽くす。第二の夢では，「太った」+「良い」七つの穂のグループが最初に登場し，次に「醜く」+「痩せた」七つの穂のグループが出現する。最後に，第二のグループが第一のグループを呑み尽くす。このようにファラオの夢 (1-7 節) は，細部に至るまで二項対立で構成されながら，三段階で物語が展開されている。

(1)　1 節前半　　：41 章全体の導入
(2)　1 節後半-7 節：ファラオの夢

2-4 節：第一の夢　1．七頭の雌牛の第一グループ　(1)「美しい」
　　(2)「太った」
　　2．七頭の雌牛の第二グループ　(1)「醜い」
　　(2)「痩せた」
　　3．第二グループが第一グループを食い尽す。
5-7 節：第二の夢　1．七つの穂の第一グループ　(1)「美しい」
　　(2)「太った」
　　2．七つの穂の第二グループ　(1)「醜い」
　　(2)「痩せた」
　　3．第二グループが第一グループを呑み込む。

---

[9]　1 ～ 7 節と区分する者 (G. Wenham, H. J. Boecker, J. Ebach) と，1 ～ 8 節と区分する者（J. Skinnen, V. P. Hamilton）がある。

(1)　41 章全体の導入：1 節前半

41 章は「二年の日々が経って」という時間設定ではじまる。40 章では「これらの事の後」という一般的な定型句（transition formula）であったのに対し，ここでは二年という特定の時間が言われている。導入の「二年」は，41 章のテーマとなる豊作と飢饉の「七年」に時間的に関係する。45：6 では「二年」の飢饉と言われれており，豊作の七年をはさんで対応する。

ファラオの給仕長のヨセフ忘却の期間は，そのままヨセフの牢獄での苦痛の歳月である。ファラオにとっては誕生日のとき（創 40：20）以来ということである。ヨセフが何歳かは明白に記されていないが，37 章の事件以来からすれば 13 年いうことになるであろう[10]。

「二年の歳月」の二という数は象徴的で，37 章から 41 章へかけての夢の物語の中で重要な数として用いられている。37 章（ヨセフ），40 章（ファラオの家臣），41 章（ファラオ）の夢はすべて二つで一対となっている。37 章では地（畑の束）と天（日，月，星），40 章では飲物（給仕長）と食物（料理長），41 章では動物（牛）と植物（穂）である。41 章のファラオの夢ではさらに美・太と醜・細に分けられ，それは最終的には豊作と飢饉の対立に関係する[11]。ファラオが「二度」夢を見たというのは，ヨセフの解釈によれば，神が豊作と飢饉をすでに決定し実行しようとしているからである（32 節）[12]。

---

[10]　ヨセフは創 37：2 で 17 歳，創 41：46 で 30 歳と記されている。G・フォン・ラート前掲書 694 頁。R. Pirson, *The Lord of the Dreams* (JSOTsuppl. 355; London/New York 2002) 57 頁参照。

[11]　ヨセフの二人の子供の誕生（50 節），第二の車（43 節）なども二に関係する。ダニ 2：1 にはネブカドネザル王の第二年に夢を見たという話がある。

[12]　5 節には「彼は再び夢を見た」とあるが，この「ふたたび」（šenît）は 1 節の「二」（šənāṯayim）と同語であり，インクルジオとなっている。一方は二年という日数にかかわり，他方は二回という回数にかかわる。夢を二度見ることはギルガメシュ叙事詩などの古代近東の文学にもある *ANET*，76-77 頁。月本昭男訳『ギルガメシュ叙事詩』（岩波書店　1996）18-20 頁。V. P. Hamilton, *The Book of Genesis Chapters 18-50* (NICOT: Michigan 1995) 487 頁参照。

「二年の日々が経って」と訳される１節原文には，「二年」（šənāṯayim）のあとに「日々」（yāmîm）がついている[13]。これは複数形で長期の時間をあらわすが，９節の給仕長の言葉の「今日」（hayyôm）は冠詞をともなった単数形で短期の時間を表現している。二年の日々が経ってのち，今日という時間設定で夢の解釈という新しい段落がはじまる[14]。

41 章の書き出しの時間設定は次のようになっている。

１節：２年（年）　wayəhî miqqēṣ šənāṯayim yāmîm
８節：朝（日）　wayəhî ḇabboqer
９節：今日（日）　hayyôm

⑵　ファラオの夢：１節後半−７節

①　ファラオの夢の文学的構造

ファラオの夢[15]の枠組は，「ファラオは夢を見た」（１節後半）と，「これは夢であった」（７節最後）によって形成されている。この枠組の中で，二つの夢が記述されている。まず最初に全体の前書きとして「見よ（ヒンネー），彼（ファラオ）はナイル川のほとりに立っていた」と記されている。そして，第一の夢は「見よ（ヒンネー），七頭の雌牛がナイル川から上がってきた」ではじまり，「ファラオは目が覚めた」で終る。第二の夢は「彼は眠って，再び夢を見た」という言葉が導入の文言としてあり，「見よ（ヒンネー），七つの穂が〜」ではじまり，第一の夢の終りと同文である「ファラオは目が覚めた」で終わる。全体の構造は以下のとおりである[16]。

---

[13]　同様の用法は創 25：7，29：14，35：28，47：8，28，サム下 13：23，14：28，エレ 28：3，11，ダニ 10：2f にある。

[14]　40 章では「三」が三日後のファラオの誕生日の「日」に関係づけられたのに対し，41 章では二年後のファラオの夢の「七」が「年」と関係づけられている。

[15]　「王の夢」（der Königstraum）については，E. L. Ehrlich, “Traum”, *RGG*³ VI, 1001-1005 参照。

[16]　ファラオの夢（１節後半−７節）の中で主要な単語は３回ずつ出て来る。ファラオ，夢（分詞＋動詞＋名詞），「見よ」（ヒンネー）が３回＋３回，七（数）が３回＋３回である。

1節後半：ファラオは夢を見た（ûpar‘ō^{h} ḥōlēm）
見よ（ヒンネー），彼はナイル川のほとりに立っていた
第一の夢　見よ（ヒンネー），七頭の雌牛が～
見よ（ヒンネー），七頭の雌牛が～
食い尽す
ファラオは目が覚めた
5節：第二の夢　彼は眠って，再び夢を見た
見よ（ヒンネー），七つの穂が～
見よ（ヒンネー），七つの穂が～
呑み込む
ファラオは目が覚めた
7節最後：これは見よ（ヒンネー）夢であった（wəhinnē^{h} ḥălôm）

② 第一の夢の文学的構造

(i) 枠組：1節と4節

1節：ファラオは夢を見た（ûpar‘ō^{h} ḥōlēm）
4節：ファラオは目覚めた（wayyîqaṣ par‘ō^{h}）

1節の「ファラオは夢を見た」と4節の「ファラオは目覚めた」が第一の夢の枠組を形成している。1節は「ファラオ」+「夢を見る」（分詞），4節は「目覚める」（3人称男性）+「ファラオ」となっており，ファラオではじまり，ファラオでおわるキアスムスの形式となっている。

(ii) 導入の言葉：ヒンネー（hinnē^{h}）

第一の夢の中でヒンネーは3回あり，各文節の導入の役割を果たしている。但し，第1のヒンネーはファラオに関して言われているので，これは7節のヒンネー「なんと（ヒンネー），それは夢であった。」に対応するものである。第2，第3のヒンネーが雌牛についてであり，第1のヒンネーから第3のヒンネーまでの文節は鎖状に繋がっている。

第1のヒンネー：立つ（分詞）+ナイル川のほとり（ファラオ）
第2のヒンネー：ナイル川から+上がる（分詞）+七頭の雌牛
第3のヒンネー：七頭の雌牛+上がる（分詞）+ナイル川から

(a)第1のヒンネーはファラオであり，第2のヒンネーは雌牛であるが，

両者は並行的なヒンネーのあと，ナイル川でつながっている。動詞は異なるがどちらも分詞形でキアスムスの形式となっている。

(b)第２のヒンネーと第３のヒンネーは両者とも雌牛に関してで，どちらも「ナイル川から」「上がる」（分詞）。但し，前者は美･太の雌牛であり，後者は醜・細の雌牛である。

(iii) 夢の構造

並行的なヒンネーのあと，雌牛の二つのグループは次のような文学的構造を持っている。

(a) 集中化構造

Ａ：２節 aα (a) ナイル川から＋(b) 上がる（分詞）＋(c) 七頭の雌牛

Ｂ：３節 aα (c')七頭の雌牛 ＋(b')上がる（分詞）＋(a')ナイル川から～

(b) キアスムス

Ａ：２節 aβ (a) 美しい＋姿＋(b) 太った＋肉＝食(は)む

Ｂ：３節 aβ (c) 醜い＋姿＋(d) 痩せた＋肉＝立つ

B'：４節 aα 食べる＝(c') 醜い ＋姿＋(d') 痩せた＋肉

A'：４節 aβ (a') 美しい＋姿＋(b') 太った

(iv) ナイル川（４回）

ナイル川は，(a)ナイル川のほとり→(b)ナイル川から→(b')ナイル川から→(a')ナイル川のほとりという順序で，全体でみるとキアスムスの形式となっている。それにともなう動詞「立つ」と「上がる」も同様に全体でキアスムスの形式を取っている。

Ａ：１節 「立つ」(分詞)＋ナイル川のほとり

Ｂ：２節 ナイル川から＋上る＋七頭の雌牛

B'：３節 a 七頭の雌牛 ＋上る＋ナイル川から

A'：３節 b 「立つ」(3pl.f)＋雌牛＋ナイル川の岸のほとり

(a) ＡとA'：ナイル川のほとり

Ａ：「立つ」(分詞)（ファラオ)＋ナイル川のほとり

A'：「立つ」(3pl.f)＋雌牛 ＋ナイル川の岸（＝唇）のほとり

１節ではファラオがナイル川のほとりに立つ（分詞）のであるが，３節では七頭の醜い痩せた雌牛がナイル川の岸ほとりにいた雌牛のそばに

立つ（3人称複数形）。同じナイル川のほとりに立つと書かれながら，1節の主語はファラオであり，3節の主語は雌牛である。夢の中で動詞「立つ」の主語が夢見る本人から雌牛へと入れ替わる。

(b)　BとB’：ナイル川から

B ：(a)　ナイル川から＋(b)　上がる＋(c)　七頭の雌牛

B’：(c’)　七頭の雌牛　＋(b’)　上がる＋(a’)　ナイル川から

二組の七頭の雌牛のグループはともにナイル川から上るのであるが，その叙述は両者合わせればa-b-c- c’-b’-a’ という集中化構造となる[17]。動詞「上がる」（アラー/‘ālah）は「ナイル川のほとり」の「ほとり」＝前置詞「～の上に」と最初の二字（アル/‘āl）が同じであり，ここには言葉遊びがあると思われる。

(v)　美・太と醜・細[18]

雌牛の美・太と醜・細に関しては，ナイル川の枠組からはずれたかたちで2-3節と4節にわたって書かれ，微妙にバランスが崩れている。それは意図的なものであると考えられるが，全体として見た場合にキアスムスの形式が見て取れる。

A ：2節　(a)　美しい＋姿　(b)　太った＋肉

B ：3節　(c)　醜い　＋姿　(d)　痩せた＋肉

B’：4節　(c’)　醜い　＋姿　(d’)　痩せた＋肉

A’：4節　(a’)　美しい＋姿　(b’)　太った

「美しい」（2回）と「醜い」（2回）はそれぞれ「姿」（マルエー）（4回）にかかっている。他方，「肉」にかかる「太った」（1回）と「痩せた」（2回）は均衡が取れていない。肉は合計3回である。これは3の数に合わせたものと考えられる。

(vi)　食(は)むと食べる

2節で雌牛は草を「食(は)む」（rā‘â）と言われ，4節で雌牛は雌牛を「食

17　動詞「上る」は2節が ‘ōlōṯ，3節が ‘ōlôṯ という相違はある。

18　テクストの「美・太と醜・細」は，対立概念の「美・醜」，「太・細」を分離・再統合したものである。

べる」（’akal）と述べられている。雌牛が草を食むことは普通であるが，雌牛が雌牛を食べるということは異常である[19]。「食む」も「食べる」も同じ意味ではあるが，その対象は異なっており，後者は実に夢の中の出来事として理解される[20]。

(vii) 七頭の雌牛（３回）と雌牛（２回）

２，３，４節後半には七頭の雌牛と書かれているが，３節後半と４節前半では単に雌牛とのみ記されており七頭は削除されている。３節後半の雌牛は文脈から，美・太の雌牛のことである。４節前半は醜・細の雌牛と書かれている。七頭の雌牛が３回記されているのは，３の数に合わせたものと考えられる。「七頭の美・太の雌牛」と同様な「七頭の醜・細の雌牛」という表現はない。

七頭の美・太の雌牛（２回）　雌牛（１回）　＝３回
七頭の雌牛＋醜・細（１回）　醜・細の雌牛（１回）＝２回

(viii) 夢の三段階

夢の中の出来事は三段階で生起する。登場するのは同じ七頭の二組の雌牛であるが，最初には美・太の良いグループが，次には醜・痩の悪いグループがあらわれる。そこで後者が前者を食べるという結末になる。出来事は三段階に分けられながらも，その記述は全体を通してみると，A-B-B’-A’ というキアスムスの形式で構成されている。

③　第二の夢の文学的構造

第二の夢は「彼は眠り，再び夢を見た」という導入ではじまる。ここで「彼は眠り」とあるが，これは第一の夢では言われていなかったことである。夢は眠りの中においてであるが，動詞「夢を見る」が使われる際，必ずしも動詞「眠る」を必要とするわけではない。ここには，音韻的に「眠る」（yāšēn/ヤシェン）と「再び」（šēnît̲/シェニト）の語呂合わせがある。

19　V. P. Hamilton, *The Book of Genesis ch. 18-50* (Michigan 1995) 486.
20　41：7 の穂が穂を飲み尽くすというのも同様である。

第二の夢に共通して登場するのは七つの穂であるが，最初に出て来るのは太った，良い七つの穂のグループであり，次に出て来るのは痩せて焼けた七つの穂のグループである。第一の夢の「美・太」，「醜・細」が対立概念の「美・醜」，「太・細」を分離・再統合したものであるように，第二の夢も，「太・良」，「痩・焼」が対立概念の「太・痩」，「良・焼」を分離・再統合したものであり，最後に後者が前者を飲み込むという事態になる。どちらのグループも，第一の夢と同様に，導入の言葉ヒンネーによって書きはじめられている。

(i)　枠組：5節と7節

5節の「彼は再び夢を見た」と7節最後の「なんと，それは夢であった」は第二の夢の枠組をつくっている。第二の夢は動詞「夢を見る」ではじまり，名詞「夢」でおわっている[21]。

5節：　　彼は再び夢を見た（wa̤yyaḥălōm šēnîṯ）

7節：なんと，それは夢であった（wəhinnēʰ ḥălôm）

(ii)　導入の言葉：ヒンネー

5-7節でヒンネーは合計3回使われているが，第二の夢の中では2回で，第一の夢と同様に導入の役割を果たしている。夢から目覚めたあと，それが夢であったことを強調するために「なんと」（ヒンネー）と言われている。

第1のヒンネー：七つの穂＋上がる（分詞）

第2のヒンネー：七つの穂＋～＋～＋生える（分詞）

第3のヒンネー：夢

(a)　第1と第2のヒンネーは両者とも穂であって並行的である。ただ，動詞は同義語ではあるが，前者が「上がる」のであるのに対し，後者は「生える」と異なっている。これは第一の夢では両者とも「上がる」と同じ動詞であったのとは相違する。

(b)　第3のヒンネーは夢にかかっている。王上3：15には「ソロモンは

---

[21]　5節はじめの「眠る」は1節の「二年の日々が経って」に対応するものと見る。7節の「なんと，それは夢であった」は1-7節全体の枠組でもある。

目を覚ました。なんと，それは夢であった」とあり，名前がファラオとソロモンと変わるだけで同文である[22]。両文の背景にはなんらかの接点があるものと考えられる。

創世 41：7　ファラオは目を覚ました。なんと，それは夢であった。

王上 3：15　ソロモンは目を覚ました。なんと，それは夢であった。

(c)　ファラオの夢の中 (1-7 節) で，ヒンネーは全部で 6 回出てきて，全体を通してみるとキアスムスの構造を形成しているのがわかる。

A ：「夢を見た」(分詞)＋ヒンネー

B ：第一の夢　ヒンネー＋七頭の雌牛＋～

ヒンネー＋～＋七頭の雌牛

B'：第二の夢　ヒンネー＋七つの穂

ヒンネー＋七つの穂

A'：ヒンネー＋「夢」(名詞)

(iii)　夢の構造

並行的なヒンネーのあと，穂の二つのグループは次のような文学的構造を持っている。

(a)　七つの穂（3 回）と穂（1 回）

七つの穂はヒンネーのあと，第一の夢とは異なり並行的に書かれている。

5 節：ヒンネー＋七つの穂

6 節：ヒンネー＋七つの穂

7 節では「痩せた穂が太った良い七つの穂を呑み込んだ」と言われており，これは 4 節で「醜い姿・痩せた肉の雌牛が美しい姿・太った七頭の雌牛を食べた」と述べられているのと同様に，良いほうには七がつけられているが，悪いほうには七が欠けている。ここでも七つの穂が 3 回というのは，3 の数に合わせたものと考えられる。

(b)　動詞（3 回：2 回は分詞）

5 節：第 1 グループ「上がる」(分詞)＋場所（1 本の茎に）

6 節：第 2 グループ「生える」(分詞)＋時間（あとから）

---

[22]　M. Ottoson, “chālam” *TDOT*, vol. IV, 427 頁参照。

7節：第2グループ「呑み込む」（3人称複数）→第1グループ

＊第1グループの動詞「上がる」は，第一の夢での第1と第2のグループと同じ動詞である。第二の夢では最初のグループのみにしか使われていない。

＊第2グループの動詞「生える」は「上がる」と同義語である。あと一度，23節のファラオが夢を語る時に用いられている。

＊7節で第2グループは第1グループを「呑み込む」が，第一の夢では第2グループが第1グループを「食べる」といわれていた。どちらも夢の中の奇異な話ではある。また第一の夢では第1のグループが草原で「食(は)んでいた」とあり，この三つの動詞は同義語として出て来る。動詞「呑み込む」はあと一度，24節のファラオが夢を語る際に使われている。

(iv)　太・良＋痩・枯

「ヒンネー＋七つの穂」以下は次のようになっている。

A ：5節　(a)　上がる＋茎に＋一本　　(b)　太った＋良い

B ：6節　(c)　痩せた＋焼けた・東風　(d)　生える＋後から

B’：7節　(c’)　呑み込む＋痩せた穂

A’：7節　(b’)　七穂＋太った＋満ちた

(a)基本的には第一の夢同様に，「太った＋良い」と「痩せた＋枯れた」の二項対立構造である。

(b)「太った＋良い」

第一の夢と同語の「太った」(bārî’) は第二の夢でも2回（5，7節）使われている。5節の「良い」(ṭôb) は7節では「満ちた」(mālē’) に変わっている。

(c)「痩せた＋焼けた・東風で」

第一の夢と同語の「痩せた」(daq) は第二の夢でも2回（6，7節）用いられている。6節の「東風に枯れた」は7節では欠けている。

(v)　夢の三段階

夢の中の出来事は第一の夢と同様に三段階で生起する。出来事は三段階に分けられながらも，その記述は全体を通してみると，A-B-B’-A’ と

いうキアスムスの形式で構成されている。

Ⅳ　創世記 41 章 8-16 節の全体的構造

ファラオの夢の記述（3 人称）の後，ファラオがヨセフに自分の見た夢を話す（1 人称）までの 8-16 節には中継的な Interlude がある[23]。その全体的な構造は次のとおりである。

Ａ：8 節　彼は遣わした＋彼は呼んだ＋エジプトの全魔術師を＋全知識人を
Ｂ：9 節　給仕長は語った　＋ファラオに
Ａ’：14 節　ファラオは遣わした＋彼は呼んだ＋ヨセフを

Ａ：15 節　ファラオは言った→ヨセフに
Ｂ：16 節　ヨセフは答えた　→ファラオに

8-16 節はファラオと給仕長の会話（8-14 節），及びファラオとヨセフの会話(15-16 節)の二部に分けられる。8-14 節はファラオが枠組となって，真中に給仕長がファラオに答える集中化構造になっている。15-16 節はファラオとヨセフの問答形式である[24]。

(1)　ファラオと給仕長（8-14 節）

①　枠組：8 節と 14 節

Ａ：8 節　wayyišlaḥ　＋wayyiqrā’＋’et-kol-～＋wə’et-kol-～
Ａ’：14 節　wayyišlaḥ par‘ō^{h}＋wayyiqrā’＋’et-yôsēp̄

8 節と 14 節はともに「遣わす」＋「呼ぶ」の順序で，対象については前置詞「～を」（’et）が両節に使われている[25]。「ファラオ」は両節に登場するが，動詞は 8 節では「話す」（サファル）[26]，14 節では「遣わす」（シャラー）と異なっている。

---

[23]　G. W. Coats は 8-14 節を〝Interlude〞とし，15-16 節は〝Dialogue〞（15-36 節）の〝Opening dialogue〞とする。前掲書 277 頁参照。

[24]　但し，15-17 節をひとまとまりとすると，ファラオが枠組となって，真中にヨセフがファラオに答える集中化構造となる。8-14 節と比較すると枠組はどちらもファラオであり，真中が一方は給仕長，一方はヨセフとなる。

[25]　但し，8 節では 2 回用いられている。

[26]　動詞「話す」（サファル）については，R, Pirson，前掲書 56-57 参照。

② 真中：9 節　wayəḏabbēr śar hammašqîm＋’eṯ- par‘ōʰ lē’mōr

40 章での登場人物，給仕長が 41：9 であらわれ，ファラオにヨセフのことを語る（ダバル）。そこで王はヨセフを召喚することになり，給仕長は仲介者としての役割を果たす。

(2) ファラオとヨセフ（15-16 節）

15 節：wayyō’mer par‘ōʰ＋’el-yôsēp　ファラオ（言う）→ヨセフ

16 節：wayya‘an　yôsēp＋’eṯ-par‘ōʰ　ヨセフ（答える）→ファラオ

15-16 節はファラオとヨセフの問答で，ファラオが「言う」（アマル）に対し，ヨセフはそれに「答える」（アナー）。語りかける相手に使われている前置詞は，ヨセフには「～に」（’el）であるのに対し，ファラオには「～に」（’et）が用いられている。ヨセフがファラオに答えるに際し「ファラオにこう言って」（’eṯ-par‘ōʰ lē’mōr）と言うのは 9 節の給仕役の長の場合と同じである。

9 節：給仕役の長は語った＋ファラオにこう言って

16 節：ヨセフは答えた　　＋ファラオにこう言って

V 創世記 41 章 17-24 節の全体的構造

(1) 17-24 節の全体的構造[27]

16 節のヨセフの発言を受けて，ファラオはヨセフに自分が見た夢を語る。これは 1-7 節の夢の記述とくらべると，少し単語数が増えている[28]。17-24 節は第一の夢（17 節後半-21 節）と第二の夢（22-24 節前半）の二部に大きく分けられる。ただ最後（24 節後半）に夢のあとの出来事が簡単に述べられている。この箇所はファラオの夢の記述（1 節後半-7 節）とは関係せず，Interlude の 8 節に対応する記事である。

A ：ファラオはヨセフに（前置詞「～に」エル）語った

B ：第一の夢：「私の夢の中で」＋「ヒンネニ」

(a) ヒンネー：第一のグループ

---

[27] 17-24 節の文学的構造分析に関しては R. Pirson，前掲書 54-55 頁参照。

[28] 1-7 節が 85 語なのに対し，17-24 節は 96 語である。

(b)　ヒンネー：第二のグループ
(c)　食い尽くす
私は目覚めた
B’：第二の夢：「私は見た」＋「私の夢の中で」
(a)　ヒンネー：第一のグループ
(b)　ヒンネー：第二のグループ
(c)　呑み込む
A’：夢のあと：「わたしは魔術師たちに（前置詞「～に」エル）話した」
「わたしに告げる者はいなかった」

①　枠組：17 節と 24 節
17 節：ファラオはヨセフに語った。
24 節：私は魔術師たちに話した。
ファラオがヨセフに夢を語るのは，魔術師たちに話してもその夢を解く者がいなかったからである（8 節）。17 節の動詞は「語る」（ダバル）であり，24 節の動詞は「話す」（アマル）と動詞は異なるが，前置詞はどちらも「～に」（エル）で対応している。会話導入の動詞は，ここでは「語る」（ダバル）であるが，これは 9 節の給仕長がファラオに語る場合に用いられていた動詞である。
9 節：語る（ダバル）　給仕長→ファラオ
15 節：話す（アマル）　ファラオ→ヨセフ
16 節：答える（アナー）ヨセフ→ファラオ
17 節：語る（ダバル）　ファラオ→ヨセフ
25 節：話す（アマル）　ヨセフ→ファラオ

②　第一の夢と第二の夢の結びつき
17 節と 22 節の「私の夢の中で」は，それぞれ第一の夢と第二の夢の導入句である。第一の夢は 21 節の「私は目覚めた」（1 人称単数）で閉じられ，第二の夢は 22 節の「私は見た」（1 人称単数）で開かれる。第一の夢では「私は見た」の動詞がなく，第二の夢では「私は目覚めた」がない。第一の夢と第二の夢はキアスムスの形式で結びつけられている。
第一の夢：17 節　(a)　私の夢の中で　(b)　私は目覚めた

第二の夢：22 節　(b’）私は見た　　(a’）私の夢の中で

(i)第一の夢（17-21 節）は 64 語で，第二の夢（22-24 節）は半分の 32 語で書かれている。

(ii)ファラオが夢を語る箇所で特徴的なことは，1-7 節にはなかった否定形が 3 回あるということである。

19 節：エジプトの全土でこのように醜悪なのを見たことがない。

21 節：腹に入ったということが知られない。

24 節：わたしに告げる者はいなかった。

(2)　1-7 節と 17-24 節の比較

①　導入部分：1 節と 17 節

1 節：二年の歳月が経って，ファラオは夢を見た。ナイル川のほとりに立っていると，

17 節：ファラオはヨセフに語った。「夢の中で，私がナイル川の岸辺に立っていると，

(i)　1 節は「ファラオは夢を見た（動詞）」と 3 人称の叙述文であるのに対し，17 節はファラオ自身が 1 人称で語る会話文であり，「私の夢（名詞）の中で」と記されている[29]。

1 節：動詞「夢を見る」（分詞）　＝ḥōlēm

17 節：名詞「夢」＋1 人称代名詞語尾＝baḥălōmî

(ii)　1 節は間投詞ヒンネーだけであるのに対し，17 節はヒンネー＋1 人称代名詞語尾で「私」が強調されている。

1 節：接続詞＋ヒンネー　＝wəhinnē^{h}

17 節：ヒンネー＋＋1 人称代名詞語尾＝hinnî

(iii)　どちらの導入部分でも文法的に同じ活用形が続き，韻律が呼応している。

1 節：ホーレム（分詞）＋オーメド（分詞）（ḥōlēm～‘ōmēḏ）

17 節：バハローミ（1 人称）＋ヒネニ（1 人称）（baḥălōmî hinnî）

---

[29] 「私の夢」（17，22 節）と単数形であるのはヨセフの「ファラオの夢は同一です」に連繋する。G. Wenham，前掲書 392 頁参照。

(iv) 1節は「ナイル川のほとり」で，17節は「ナイル川の岸（＝唇）のほとり」と後者には「岸」（＝「唇」）が入っている。これは4節で雌牛が「雌牛の傍らに立つ」場所として言われているところであり，1節と4節の合成である。ここには意図的な混同があるのかも知れない。1節も17節も「立つ」のはファラオである。

1節：ナイル川のほとり（‘al- hayə’ōr）に「立つ」（分詞）
17節：ナイル川の岸（＝唇）のほとり（‘al-śəpaṯ hayə’ōr）に「立つ」（分詞）

② 第一の夢の比較

(i) 第一グループ：2節と18節

2節：～yəpôṯ mar’e^{h} ûḇərî’ōṯ bāśār～ 美しい姿＋太った体
18節：～bərî’ôṯ bāśār wîpōṯ tō̂’ar～ 太った体＋美しい姿

(a) 2節と17節はほとんど同じ文言であるが，「美しい姿」と「太った体」の順序が入れ替わっている。両者を並べればキアスムスの形式になる。

2節：（A）美しい姿＋（B）太った体
17節：（B’）太った体＋（A’）美しい形

(b) 2節の「姿」（mar’e^{h}）は，17節では同義語の「形」（tō’ar）という単語に変わっている[30]。創39：6ではヨセフが「姿（mar’e^{h}）も美しく，形（tō’ar）も美しく」と「姿」と「形」の両語が一緒に使われているが，創41章の2節と17節では別々に用いられている。41章では「姿」（mar’e^{h}）は4回，「形」（tō’ar）は2回用いられている。

(ii) 第二グループ：3節と19節

3節：～min-hayə’ōr rā‘ôṯ mar’e^{h} wəḏaqqôṯ～
19節：～dallôt wərā‘ôṯ tō̂’ar mə’ōḏ wəraqqôṯ～

(a) 3節には「ナイル川から」とあるが，19節にはそれがない。
(b) 19節には3節にはなかった「貧弱な」（dal）という形容詞があり，

[30] 単語の変化について〝the slight differences in phraseology are due to the literary instinct for varietty″ と J. Skinner は言う。*Genesis* (ICC; Edinburgh 1980²) 467.

また「大変に」（mə’ōd）という副詞が付加されている。雌牛が貧弱で醜悪な「形」（tō’ar）であることが 19 節では強調されている[31]。

(c) 3 節の形容詞「痩せた」（daq）[32] は，19 節では「細い」（raq）[33] という形容詞に変わっている。同義語であると同時に，単語の綴りも最初の字母がダレト（d）とレーシュ（r）と違うだけである。これは単純な書き写しの間違いではない[34]。

(d)両節には頭韻，脚韻を踏む単語が継続する。

3 節：pārôṯ ’ăḥērôṯ ‘ōlôṯ ’aḥărêhen　～rā‘ôṯ～wəḏaqqôṯ

19 節：pārôṯ ’ăḥērôṯ ‘ōlôṯ ’aḥărêhen ～dallôṯ wərā‘ôṯ～wəraqqôṯ

(iii)　3 節後半と 19 節後半

3 節の後半：watta‘ămōḏnāʰ ’ēṣel happārôṯ ‘al-śəpaṯ hayə’ōr

19 節の後半：lō’-rā’îṯî ḵāhēnnāʰ bəḵol-’ereṣ miṣrayim lārōᵃ‘

3 節の後半：岸辺にいる雌牛のそばに立った。

19 節の後半：あれほどひどいのは，エジプトでは見たことがない。

(a) 3 節後半は 19 節後半にはなく，19 節後半は 3 節後半にはない。3 節後半は醜い雌牛が美しい雌牛の傍らに立つという客観的な記述であるのに対し，19 節後半はこのような醜い雌牛を見たことがないというファラオの主観的な感想である。

(b) 3 節後半はナイル川の岸のほとりでという限定された領域であるのに対し，19 節後半はエジプト全土でという広範囲な地域に拡大されている。

(c) 3 節後半は三人称の叙述文であるのに対し，19 節後半は一人称の会話文であるが，後者のほうが醜悪な雌牛を強調している。

---

[31]　ファラオが夢を語るに際し悪いほうの雌牛や穂に力点が置かれている。G. Wenham，前掲書 392 頁参照。

[32]　6 回＝3，4，6，7，23，24 節

[33]　3 回。

[34]　H. Schweizer は混同しやすい（verwechselbar）ד と ר であるが，両語は交換可能な（auswechselbar）単語であると言う。*Die Josefsgeschichte*, I (Tübingeu 1991) 16.

(iv) 夢の第三段階

4 節 a：～rā‘ôṯ hammar’eʰ wəḏaqqōṯ habbāśār～yəpōṯ hammar’eʰ～

20 節： ～ hāraqqôṯ wəhārā‘ôṯ～hāri’šōnôṯ～

(a) 4 節前半では「醜い姿と痩せた体」（rā‘ôṯ hammar’eʰ wəḏaqqōṯ habbāśār）とあるが，20 節では「姿」（hammar’eʰ）と「体」（habbāśār）がなくて，単に「醜い，痩せた」雌牛たちとしている。20 節では姿と体という単語がなくても理解されるからであろう。

(b) 4 節前半の「美しい姿」（yəpōṯ hammar’eʰ）の雌牛たちは，単に「前の」雌牛たちとだけ簡略に言われている。

(c) ここでも 3 節と 19 節同様に，「痩せた」（daq）と「細い」（raq）の綴りの最初の字母が異なっており，ダレト（ד）がレーシュ（ר）に変わっている。

(v) 21 節前半の付加

21 節前半のファラオの感想では「はじめのように醜かった」と言われているが，「腹に入っても腹に入ったということが知られず」という文言は 4 節にはなかった。ファラオが夢を語るときには，醜いということを 19 節と同様に否定形を用いて強調している。

(vi) 結末：4 節と 21 節

結末は，4 節が「ファラオは目覚めた」（wayyîqaṣ par‘ōʰ）と 3 人称の記述であるのに対し，21 節が「わたしは目覚めた」（wā’îqāṣ）と 1 人称での語りであるという相違だけである。

③ 第二の夢の比較

(i) 導入部分：5 節と 22 節

5 節：彼は眠り，再び夢を見た （wayyîšān wayyaḥălōm šēnîṯ）

22 節：私は見た，私の夢において（wā’ēre’ baḥălōmî）

(a) 5 節には「眠る」という動詞があるのに対し，22 節にはその動詞はない。

(b) 5 節が「彼は再び夢を見た」（動詞「夢見る」3 人称）と述べるのに対し，22 節は「私は私の夢において見た」（動詞「見る」1 人称＋名

詞「夢」）と，「再び」を省略し，「見る」を強調している[35]。これは33節の「見る」に関連するためと考えられる。

(ii)　第一グループ：5節と22節

5 節：～‘ōlôṯ～bərî’ôṯ～　～上がる～太った

22節：～‘ōlōṯ～məlē’ōṯ～　～上がる～肥えた

(a)動詞「上がる」（分詞）は，5節で‘ōlôṯ，22節で‘ōlōṯ と相違がある。

(b)5節の形容詞「太った」（bārî’）は，22節では「肥えた」（mālē’）と変わっている。

5節で穂は「太った，良い」と言われていたが，7節では「太った，肥えた」と述べられており，その「肥えた」が22節では5節との対応関係で「肥えた・良い」と使われている。

(iii)　第二グループ：6節と23節

6 節：～šibbŏlîm　daqqôṯ～　～穂　痩せた～

23節：～šibbŏlîm ṣənūmôṯ daqqôṯ～　～穂・枯れた・痩せた～

(a)23節では6節になかったhapax　legomenonの動詞「枯れる」（ṣanam）の分詞が付加されている。穂が実っていないことを強調するためであると考えられる。「枯れる」（ṣənūmôṯ）は「生え出る」（ṣōmḥôṯ）と音韻的に類似している。

(b)両節で「オート」（ôt）という脚韻が継続するのが特徴的である。

～ṣənūmôṯ daqqôṯ šəḏūpôṯ～ṣōmḥôṯ

(iv)　第三段階：7節前半と24節前半

7 節a：wattiḇla‘nāʰ～qqôṯ ’ēṯ～habbərî’ôṯ wəhammələ’ôṯ

24節a：wattiḇla‘nā～qqōṯ ’ēṯ～haṭṭōḇôṯ

(a)7節と24節は同じ動詞「呑み込む」（bāla‘）であるが，7節はwattiḇla‘nāʰ，24節はwattiḇla‘nāである。

---

[35]　動詞「見る」は創41章では，19（王），22（王），28（神，使役態），33（王），41（王）節で使われている。

(b) 7 節と 24 節は同じ形容詞「痩せた」(daq) であるが，7 節は haddaqqôṯ，24 節は haddaqqōt である。

(c) 7 節の「太った，肥えた」(habbərî'ôṯ wəhammənlē'ôṯ) は 24 節では「良い」(haṭṭōḇôṯ) と簡略に述べられている。上述したように，7 節の「太った，肥えた」は 22 節で用いられており，24 節の「良い」は，5 節で穂が「太った，良い」と形容されていた「良い」と同じ形容詞である[36]。

(v) 終結部分：7 節後半と 24 節前半

7 節後半：wayyîqaṣ par'ōʰ wəhinnēʰ ḥălôm

24 節前半：なし

7 節のおわりには「ファラオは目覚めた。なんと，それは夢であった」という結びがあるが，ファラオが夢を語る 24 節前半にはその文言はない。24 節後半は 8 節と対応する。

(vi) 結末：8 節と 24 節後半

8 節：wayəhî ḇabbōqer wattippā'em rûḥô wayyišlaḥ wayyiqrā' 'eṯ-kol-ḥarṭummê miṣrayim wə'eṯ-kol-ḥăḵāmeʸhā wayəsappēr par'ōʰ lāhem 'eṯ-ḥălōmô wə'ên-pôṯēr 'ôṯām ləpar'ōʰ

24 節後半：wā'ōmar 'el-haḥarṭummîm wə'ên maggîḏ lî

(a) 8 節の「朝になってファラオは胸騒ぎを覚え」の一文は 24 節にはない。

「胸騒ぎを覚える」(wattippā'em rûḥô) という表現は，ダニエル書 2 章 1 節～ 3 節でも王の夢の関連で使われている。創 41：8 の場合，胸騒ぎを覚えて魔術師と知者を呼ぶわけであるが，ダニエル書の場合には，1 節と 3 節の「胸騒ぎを覚える」が 2 節の「占い師，祈祷師，まじない師，知者を呼び出し」を囲い込んでいる。

創 41：8　胸騒ぎを覚える (wattippā'em rûḥô 3 人称)→魔術師と知者を呼ぶ

---

[36] 創 41 章では，5 (穂)，22 (穂)，24 (穂)，26 (雌牛)，26 (穂)，35 (年) 節で使われている。

ダニ 2：1　胸騒ぎを覚える（wattiṭpāʻem rûḥô 3人称）→眠れなくなった
　　2：2　　占い師，祈祷師，まじない師，知者を呼び出し
　　2：3　胸騒ぎを覚える（wattippāʻem rûḥî 1人称）→その夢を知ろうと

(b) 8節の「人を遣わし（シャラー），エジプトのすべての魔術師とすべての知者を呼び（カラー），ファラオは彼らにその夢を話した（サファル）」は，24節では「私は魔術師たちに言った（アマル）」と，13語の文章が3語のそれへと非常に短縮されている。

(c) 8節最後の「それらをファラオに解き明かす者はいなかった」は，24節最後では「私に告げる者はいなかった」と簡潔になっている。動詞はどちらも分詞であるが，8節は「解き明かす」（pātar）[37]，24節は「告げる」（nāgad）（37：16，41：25）と異なっている。否定辞（エン）＋分詞＋前置詞「～に」（ル）という構文は同じである。

8節：それらをファラオに解き明かす者はいなかった（wə’ên-pôṯēr ’ôṯām ləpārʻō^{h}）
24節：私に告げる者はいなかった　（wə’ên maggîḏ lî）

Ⅵ　創世記41章25-36節の全体的構造

ヨセフによるファラオの夢の解き明かしは，17節の「ファラオはヨセフに語った（ダバル）」に対応する25節の「ヨセフはファラオに言った（アマル）」によって導入される。ヨセフの言葉は，「ファラオの夢は同一です」に始まり，36節の「この地は飢饉によって滅びることはないでしょう」で終る。37節からは新たな段落がはじまる。

ヨセフによる夢の解き明かしの段落は大きく二つの部分に分けられる。第一部は25節から32節までの夢の解き明かし，第二部は33節から36節までのヨセフのファラオに対する提言である[38]。

---

[37]　8，11，12，12，13，15，15節で合計7回使われており，これは40章5，8，8，12，16，18，22節で合計7回用いられているのと同じである。

[38]　第一部（25～32）：神（4回）―ファラオ（6回），エジプトの地2回，地2回
第二部（33～36）：神（0回）　ファラオ（3回），エジプトの地3回，地3回。

(1) 第一部（25-32 節）：夢の解き明かし

第一部は 25-28 節の前半と 29 節-32 節の後半に分けられる。ファラオの夢は動物（牛）と植物（穂）によって分けられ，それぞれに良いものと悪いものが登場していたが，ヨセフは善悪の価値基準によって動物と植物を分類整理してファラオの夢を再構築する。前半は「一」（エハド ’eḥāḏ）で始まり，後半は「二」（hiššānôṯ と pa‘ămāyim）で閉じられている。

前半（25-28 節）：七頭の雌牛と七穂は七年。ファラオの夢は同一
後半（29-32 節）：七年の豊作と七年の飢饉。夢は繰りかえし二回

① 第一部の枠組

25-32 節には，「神がなそうとする（アサー）」という文言が，始め，真中，終りにあって第一部は三部に分割される。

始め（25 節）「神がなそうとすることをファラオに告げた（nāgad[39]）」
真中（28 節）「神がなそうとすることをファラオに見せた（rā’â）」
終り（32 節）「神がすぐになそうとしているからです」

(i) 各節は二分節からなり，前の分節はファラオに関すること，後の分節は神に関することである。
(ii) 始め（25 節）には「同一」（エハド）が言われているのに対し，終り（32 節）には「繰り返す」（シャナー）と「二度」（パアマイム）が述べられている。また 25 節と 32 節にはそれぞれ名詞「夢」，前置詞「～に」（ル）があって外枠を構成している。
(iii) 始め（25 節）と真中（28 節）はほぼ同文である。ただ，動詞が「告げる」と「見る」，それにつづく前置詞が「～に」（ル）と「～を」（エト）と異なる。
(iv) 真中（28 節）と終り（32 節）には「ファラオに」と「こと」（ダバル）があってインクルジオをなしている。

---

[39] この動詞は 25 節では神が主語であるが，24 節では魔術師が主語である。

② 第一部の前半

(i) 良い：26 節

(a) 25 節には「ファラオの夢，それは同一です」という文言があり，26 節の終りにはファラオは欠落しているが語順を同じくする「夢，それは同一です」という同一の文言があり，インクルジオとなっている。

25 節：「ファラオの夢，それは同一です」ḥălôm par‘ōʰ ’eḥāḏ hû’

26 節：「夢，それは同一です」　ḥălôm　’eḥāḏ hû’

(b) 26 節の 5 分節はすべて 3 語ずつで構成されている。最後の 1 分節以外はさらに二分割され，前の 2 分節は七頭の雌牛，後の 2 分節は七つの穂について書かれ，4 分節のすべてが七ではじまるように揃えられている。

A	七牛	良い	3 語
B	七年	それら	3 語
A’	七穂	良い	3 語
B’	七年	それら	3 語

(c)「夢を見る」(1-7 節）と「夢を語る」(17-24 節）においては，雌牛と穂の肯定的な形容は美しいとか太ったとか多様であったが，ヨセフの夢の解き明かしにおいては，雌牛と穂の肯定的な形容は単に「良い」（トーブ）だけで簡潔である。

(ii) 悪い：27 節

(a) 26 節では雌牛と穂の両方に「良い」（トーブ）という形容詞がつけられていたが，27 節ではその対立語「悪い」（ラアー）は雌牛だけに形容され，雌牛と穂の両方には「痩せた」（ラク）という形容詞がつけられている。これは悪いほうを強調するためであると考えられる[40]。

(b) 27 節の最後に飢饉という単語がある。26 節の最後には豊作という単語がなかったので，ここで飢饉が強調されているということがわかる。ただ，この飢饉が七つの穂だけにかかるのか，あるいは七頭の雌牛と七つの穂の両方にかかって七年の飢饉と述べられているのか明白では

[40] 27 節は 18 語で書かれており，26 節の 15 語より 3 語多い。

ない[41]。27 節後半は 26 節後半とは対応せず両者間には不均衡が見られる。

A	七牛	痩せた＋悪い　上がる　後から	6 語
B	七年	それら	3 語
A’	七穂	痩せた＋枯れた＋東風	5 語
B’	ある　七年	飢饉	4 語

③　第一部の後半

ここでヨセフは明白に夢の解釈をする。前半では良い七牛と七穂を良い七年に，悪い七牛と七穂を悪い七年にまとめ ── 悪い七年が飢饉であるということはすでにふれられていたが ──，後半ではそれぞれの七年の意味を明らかにする。雌牛（動物）と穂（植物），善と悪，美と醜にはもはや言及されず，七年が大地の豊作と飢饉であると解釈される[42]。

(i)　豊作：29 節

(a)　最初にヨセフの口から唯一のヒンネーが発せられる。ファラオの夢に関しては頻繁に言われていたのに対し，ヨセフはエジプト全土に七年の大豊作がやって来ることを述べる前に一度だけヒンネーを言って豊作を強調する。

(b)　七（シェバ/šeḇa‘）と豊作（サバ/śāḇā‘）には音韻と字母の類似がある。シェバとサバには語呂合わせがあり[43]，七の最初の字母が（שׁ/š＝shin）であるのに対し，豊作は（שׂ/ś＝sin）である。これは 3 節の「痩せた」（wəḏaqqôṯ）と 19 節の「細い」（wəraqqôṯ）の単語のはじめの字母が，異字混同されやすいダレト（ד）とレーシュ（ר）であるのに似ている。

41　Driver が言うようにここにクライマックスがあるであろう。JPS，NIV，NJB，NRS，TNK，FBJ，TOB は両者。穂だけが七年なのは，LXX，Vulg，KJV，　NAU，RSV，YLT。

42　G. von Rad, op. cit. 308. G・フォン・ラート，前掲書 696 頁参照。

43　M. Fishbane, *Biblical Interpretation in Ancient Israel* (Oxford 1985) 451.

(ii)　飢饉：30-31 節

(a)　飢饉の叙述のほうが豊作のそれよりも長い。すでに見たように，悪く痩せた動植物の記述のほうが長いのと同様である。ここでは豊作が 9 語で書かれているのに対し，飢饉は 27 語と 3 倍の長さで述べられている。

(b)「飢饉」という単語は 30，30，31 節で 3 回あるが，「豊作」も 29，30，31 節で 3 回あり対等になっている。

(c)　30-31 節において，飢饉-豊作-飢饉-豊作-飢饉と交互で単語が出て来る。30 節では豊作が「忘れられる」と肯定形で述べられているのに対し，31 節では豊作が否定形で「知られない」と言われて対応している。

(d)「エジプトの国土（エレーツ）」は豊作にも飢饉にも両方の場合で 2 回使われており，「国土（エレーツ）」というエジプトなしの語もまた豊作と飢饉の両方の場合に 2 回用いられている。

(e)「それらのあとに」（’aḥărêhen）（副詞＋3 人称女性複数代名詞語尾）は，雌牛にしても穂にしても，どちらの場合でも，悪いほうが良いほうのあとから出て来るときに使われている。それはファラオの夢の記述の場合でも（3，6 節），ファラオが夢を語る場合でも（19，23 節），ヨセフが夢を解き明かす場合でもそうである（27，30 節）[44]。しかしながら，最後の 31 節では，これらすべてをまとめるように，「このようなあとに」（’aḥărê-k̲ēn）（副詞＋副詞）と今までと異なった表現で締めくくられている。

(f)　豊作には「大きい」（ガドール）という形容詞が 29 節で使われているのに対し，31 節の飢饉には「大変に」（ムオード）という副詞と「重い」（カベド）[45] という形容詞が用いられ，ここでも飢饉のほうが強調されているのがわかる。

(g)　30 節の「忘れられる」（シャカーのニファル形）と 31 節の「知られ

---

[44]　3，6 節，19，23 節，27，30 節。但し，23 節は他とは異なり，3 人称男性複数の語尾となっている。

[45]　但し，これは重字脱落で元来は 3 人称男性単数の動詞であったとも考えられる。

ない」（ヤダーのニファル否定形）は，豊作の忘却を肯定形と否定形で表現して強調している。これは，40：23 で給仕役の長がヨセフを思い出さず，忘れてしまったというヨセフの忘却が肯定形と否定形で述べられているのに対応する。

(h) 31 節の否定形は 21 節の否定形と同じ「知られない」（ヤダーのニファル否定形）である[46]。しかし，21 節は雌牛が雌牛を食べて腹の中に入ったことを述べる完了形（wəlō’ nôḏa‘）であるのに対し，31 節はこれから起こる豊作が飢饉のために忘れ去られるであろうことを言う未完了形（wəlō’-yiwwāḏa‘）である。

(i) 30 節前半の「すべての」（kol-/コル）は，30 節後半の動詞「全滅させる」（kālāʰ/カラー）と語呂合わせがある。全豊作は全滅させられるということである。

(j) 30 節冒頭の動詞「起こる」（クーム）は 37：7 の穀物の束が「起き上がる」（クーム）と対立的である。37：7 の穀物の束の場合はヨセフの栄光が想定されるが，41：30 の場合は飢饉という悲惨が予見されている。

(k) 雌牛（動物）と穂（植物）は女性形の名詞であり，豊作と飢饉は男性形の名詞である。二項対立の図式がジェンダーにおいても見られる。

(2) 第二部（33 節-36 節）：ヨセフの提言

夢の解き明かしのあと，ヨセフはファラオに具体的な提言をする。それは豊作の年々に食料を蓄えて飢饉の年々に備えるということである。

この箇所は三部分に分けられる。最初に（A）ファラオ（33-34 節），次に（B）ファラオに任命された人々の働き（35 節），最後に（A’）その結果どうなるかという結末（36 節）で，集中化構造となっている。

A	ファラオ（3sg.m）	a）	エジプトの国土の上に（アル）	
		b）	pqd pqd　国土の上に（アル）	
		a’）	エジプトの国土の上を（エト）	豊作の七年に（ブ）
B	（3pl.m）	a）	食料	良い年（時間）
		a’）	食料	町々で（空間）（ブ）

[46] J. Skinner，前掲書 468 頁参照。

A’	食料	(3sg.m+3pl.m)	a）	［肯定］食料 pqd 国土の上に（ル）	飢饉の七年に（ル）	
			b）		エジプトの国土に（ブ）	
			a’）	［否定］　国土は	飢饉	

① 文学的構造

(i) 33-36 節は A-B-A’ の集中化構造で形成されている。Aはファラオが 2 回主語として 3 人称単数形の動詞，A’ は食料と国土が主語として前者は肯定形，後者は否定形の 3 人称単数形の動詞である。さらにAは豊作の七年，A’ は飢饉の七年で対立しており，Aには「管理者を任命し」(pāqad＋pāqad)，A’ には「備蓄」(piqqāḏôn) という語根(pqd) を同じくする単語が配置されている。真中のBはファラオに任命された人々が主語として 3 人称複数形の動詞である[47]。

(ii) A と A’ には「エジプトの国土」とエジプトなしの「国土」が出てくるのに対し，Bには両者ともあらわれない。A と A’ はその中に集中化構造をそれぞれが持っており枠組を形成する。しかしながら，その組合わせは同様ではなく，A’ では「国土」が「エジプトの国土」を囲い込む形式となって対応している[48]。

A	(a) エジプトの国土の上に	(b) 国土の上に	(a’) エジプトの国土の上に
A’	(a) 国土に	(b) エジプトの国土に	(a’) 国土は

(iii) 第二部においても，3 回出て来る重要な単語がいくつかある。食料，ファラオ，エジプトの国土，国土，年，語根を pqd とする単語である。

(iv) AとBの繋がり

Bでは A の最後の「豊作の七年」が「良い年々」と言い換えられ，それが「やって来る」(分詞) のだと言われている。そのあとに「町々」と述べられ，ここでは時間（年々）と空間（町々）が複数形で設定されている。

(v) B と A’ の繋がり

---

47 単数形から複数形については，Skinner 前掲書 468 頁参照。

48 これは出 2：1-10 での構造と同じである。拙稿「レビの娘・モーセ・ファラオの娘」(南山神学第 33 号　2010) 5 頁参照。

B ：やって来る良い年々　　食料＋食料
A’：起こるだろう飢饉の七年＋飢饉＋食料

② （A）ファラオの課題：33-34 節
1．見る＋ファラオ
2．置く　　（A）　エジプトの国土の上に（アル）
3．する＋ファラオ
4．任ずる　　（B）　国土の上に（アル）
5．五分の一を取る　（A’）　エジプトの国土の上で（エト）
豊作の七年に（ブ）

(i) 33 節と 34 節はファラオが主語となる 5 分節で構成されている[49]。

(ii) 「エジプトの国土の上に（で）」（A と A’）が「国土の上に」（B）を囲い込む構造となっている。

(iii) ファラオがなすべきことは，まず，分別があり賢明な（nāḇôn wəḥāḵām）人（’îš，単数）を見出すことであり，次に，管理者を任命する（wəyaṗqēḏ pəqīḏîm）（複数）ことである。そうしてこそ，エジプトの国土（空間）で，豊作の七年（時間）に五分の一を徴収することができるというのである。

(iv) 動詞「見る」（ラアー）は 19 節と 22 節ではファラオがその主語（夢を見る）であり，28 節では神が主語であった。28 節では神がこれからファラオになそうと「すること」を「見せた」というのに対し，33 節ではファラオがいま分別ある賢明な人を「見つけるように」，そして「するように」（願望態）というのである[50]。神→ファラオ→分別ある賢明な人。動詞「する」と「見る」はキアスムスの形式となっている。
28 節　　：神がすること（アサー）を見せた（ラアー）
33-34 節：ファラオは見つけるように（ラアー），ファラオはするように（アサー）

(v) 33 節の形容詞「賢明な」（単数）は，8 節のエジプトの「賢明な者た

---

[49] 最後の動詞「五分の一を取る」（強意態）を除いて他は願望態（jussive）である。

[50] 但し，LXX やシリア語訳は願望態（jussive）とはせず，普通態（qal）である。

ち」（複数）と訳される単語と同語であるが，その意味内容は対立的である。さらに 39 節ではヨセフに対してこの語が使われている。

8 節：魔術師たち＋賢明な者たち＝エジプトの

33 節：分別ある＋賢明な＝人

39 節：分別ある＋賢明な＝ヨセフ

(vi) 使役態の動詞「任ずる」（pāqad）は，39：4，5 ではファラオの家臣ポティファルがヨセフに家のことを「任せる」（pāqad）と言われていたが，41：34 ではファラオが委任統治者（pəqīḏîm）を「任ずる」（pāqad）と述べられている[51]。

③ （B）委任統治者の仕事：35 節

1．集める	＝食料	良い年（時間）	8 語
2．積み上げる＝穀物		食料＋町々で（空間）	7 語
3．保管する			1 語

(i) 35 節は委任統治者（3 人称男性複数）が主語となる 3 分節からなっている。最初と次の分節は並列的である。

(ii) 最初の分節では「食料」が「良い年々」（時間）と，次の文節では「食料」が「町々」（空間）と結びつけられている。

(iii) 「良い年々」は前節の「豊作の七年」を換言したものである。飢饉が 2 回使われているのに対し，単語として豊作が 1 回しか用いられていないのは，豊作よりも飢饉を強調するためであると考えられる。

(iv) 名詞「食料」はヨセフ物語の中では 41 章から 44 章にかけて頻繁に使用され出す単語である[52]。動詞「食べる」は 4，20 節で「悪い」雌牛が（良い）雌牛を食べたと言われているが，37：20，33 では「悪い」動物がヨセフを食べたと述べられており，両者は並行関係にある[53]。

(v) 形容詞「良い」は 41 章で 6 回用いられている。そのうちの 4 回

---

[51] 普通態（qal）では「侍従長は彼らをヨセフに任せる」（40：4），「神が兄弟を顧みる」（50：24，25）とある。36 節の「備蓄」（piqqāḏôn）は同根の単語。

[52] 41：35（2 回），36，48（3 回）；42：7，10；43：2，4，20，22，44：1，25，44：1，25，47：24。

[53] 40：17，19 では「鳥が食べる」と言われている。

（5，22，24，26 節）は穂に，1 回（26 節）は雌牛に，1 回（35 節）は年にあてられている。穂に一番多く「良い」が適用されているのは，豊作は主として農耕と関係するからであろう。35 節では「良い」年に食料を集めることと，穀物（バル）を積み上げることが並列的に述べられていることからもそれはわかる。

④　（A’）食料：36 節

1．ある＋食料＋備蓄に（ル）＋地に（ル）＋飢饉の七年に（ル）

　　ある　　エジプトの地に（ブ）

2．絶たれない　　地は　　飢饉で

(i)　36 節は飢饉の年にその食料が備蓄となる（ある/ハヤー）という肯定形と，国土は飢饉によって断絶されない（カラト）という否定形の 2 分節からなっている。

「ある」（ハヤー）の肯定形：飢饉の年に食料は備蓄となる

「絶つ」（カラト）の否定形：飢饉で国土は断絶されない

(ii)　飢饉という単語はヨセフがファラオに答える言葉の最後に置かれている。これはヨセフがファラオの夢を解き明かし，最初に飢饉を述べる 27 節に呼応する。27 節でも，36 節でも飢饉の語は文節の最後に置かれている。但し，前者は飢饉があることを述べるのに対し，後者は飢饉で国が断絶されることはないと言う。

27 節：七年の飢饉があるだろう　　（yihyû šeḇa‘ šənê rā‘āḇ）

36 節：国土は飢饉で断絶されることはない（wəlōʾ-ṯiKKārēṯ hāʾāreṣ bārā‘āḇ）

(iii)　36 節の書き出しは「食料は飢饉の七年に（時間），国土に（空間），備蓄となるであろう。」（wəhāyāʰ hāʾōḵel ləp̄iqqāḏôn lāʾāreṣ ləšeḇa‘ šənê hārā‘āḇ）と，前置詞「～に」（ル）が 3 回続けて備蓄，空間，時間に当てられている。

(iv)「七年の飢饉がエジプトの国土にあるだろう」（36 節）は，35 節の「これらやって来る良い年々」と対立的な並行関係となっている。

35 節：これらやって来る（ボー，3 人称複数女性分詞）良い年々

36 節：～地にあるだろう（ハヤー，3 人称複数女性形）飢饉の七年

(v)　動詞「なる/ある」（ハヤー）は当節で 2 回使われている。はじめは食料を主語として単数形で，あとでは飢饉の年々を主語として複数形

で出て来る。

Ⅶ　エピローグ

ヨセフはファラオの夢を解く。それが正しいかどうかの実際を見るには長い年月を必要とする。40 章の給仕長と料理長の夢の場合には，ファラオの誕生日が三日後であったので，ヨセフの夢の解き明かしの正しいことはすぐに証明された。給仕長と料理長は明暗を異にして，前者は生き後者は死ぬことになる。

ところが，41 章のファラオの夢の場合には，七年の豊作と七年の飢饉という 40 章の三日とは比較にならない長い時間であって，ヨセフの夢の解き明かしが証明されるにはそうした時間の経過を待たなければならない筈である。しかるに，ファラオはその前にヨセフを責任者として豊作と飢饉の対策にあたらせる。それはヨセフ 30 歳の時で，カナンからエジプトに売られて 13 年経った時のことである。

41 章でヨセフがファラオの夢を解き明かす要点は二つである[54]。一つは七頭の雌牛と七つの穂を，七年と七年と解釈したことであり，もう一つはよい雌牛とよい穂を豊作とし，悪い雌牛と悪い穂を飢饉としたことである。そして，飢饉のほうがより重大であるということである。

37 章のヨセフの夢には神は登場しないが，40 章のファラオの家臣の夢では夢を解き明かすのは神であるとヨセフの口から一度語られる。ところが，41 章のファラオの夢の場合には，ヨセフはその夢の解き明かしの中で神を 4 回も口にする。

37 章でヨセフが見る二回の夢は大地（空間：穀物の束）と天空（時間：日・月・星）を，40 章でファラオの二人の家臣が見る夢は飲物（地：ぶどう/植物）と食物（天：鳥/動物）を，41 章でファラオが見る二回の夢は動物（七牛）と植物（七穂）を表象し全ては連鎖している。しかしながら，最後の動物と植物はそれ自体が問題ではなく，それらの良し悪しが重要であって，意味するところは豊作と飢饉という生命に関わる問題だということである。

---

[54]　Pirson は食物と時間と言う。前掲書 59 頁参照。

七年の豊作と七年の飢饉というヨセフの夢解釈は，大地と天空というヨセフの最初の夢へ循環する。ヨセフの夢の束はファラオの夢の穂につながり，太陽と月と 11 の星はヨセフのエジプトでの 13 年を象徴する[55]。豊作と飢饉は大地の収穫に関連し，七年の歳月は天空の運行と関連すると言えるだろう。

[55] R. Pirson，前掲書 57 頁参照。